

2010年5月12日

SAAJ NEWS RELEASE

「IAS37号における負債の測定」について意見書を提出

(社)日本証券アナリスト協会(会長:稲野和利 野村アセットマネジメント会長)は、2010年1月に公表された公開草案「IAS37号における負債の測定」についての意見書を作成し、5月12日(水)に国際会計基準審議会(以下IASB)へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 意見書の作成に参加した企業会計研究会の委員の過半数は、期待値モデルへの一本化には反対である。このモデルは、貸し倒れのように多数の事象が生起する場合には有効であろう。一方、訴訟リスクのように生起事象数が限定され、かつ事象間の損失金額の格差が巨大な場合には、期待値が投資の意思決定に有用な情報をもたらすか疑問である。
- ✓ 我々は、付録BのB8項の「企業が自ら債務を履行する場合にマージンを含める」という提案を支持しない。これは自己創設の利益を認識するのに等しく、財務諸表利用者に追加的に有用な情報を与えるのではなく、むしろ誤解を与えるからである。
- ✓ 大多数の委員は期待値を用いる以上、リスク調整の余地を残すのは不可欠であると考えている。例えば、50%で99CU、50%で101CU、期待値100CUという負債と、50%で1CU、50%で199CU、期待値100CUという負債を同じように評価するのは、投資家に誤解を与える可能性がある。とりわけ、後者の負債が大数の法則による分散が不可能な場合には、何らかの調整の余地が必要である。ただし、この調整が恣意的にならないように十分なガイダンスを提供する必要がある。

【添付資料】

資料1. *re: Comments on Exposure Draft "Measurement of Liabilities in IAS37"*

資料2. 公開草案「IAS37号における負債の測定」についての意見書(和訳)

本件に関するお問い合わせは下記まで

(社)日本証券アナリスト協会

電話: 03-3666-1577

担当: 教育第一企画部長 かいます 貝増 眞